令和6年度　　園評価

モコ草薙保育園

A:よくできている　B:概ねできている　C:あまりできていない　D:できていない

項目	評価内容	重視したい評価内容	園の取り組み	評価 A	評価 B	評価 C	評価 D	改善策・来年度に向けて
向かうべき保育の方向	法人理念	子ども一人ひとりに寄り添い大切に育てる	・年齢に応じた発達段階を把握した上で個々の育ちを考慮した関りや手立てを行い、少し先を見据えた育ちをイメージしねらいを考え保育を行っていった。 ・保育園が子どもにとっても保護者にとっても安心できる場であるよう、居心地の良い落ち着きある園内環境作りや保護者との連携を全職員が心掛けていった。		○			・法人理念・園の目指す子どもの姿は、全職員が理解をし同じ方向性で保育をしていると感じている。引き続き、法人の理念を基にしたモコ草薙保育園の目指す保育への取り組みは大切にしていきたい。 ・様々な家庭環境を考慮しつつ、保護者が「こんな子に育って欲しい！」という子育ての思いを大切にしながら、保育園はそれをサポート出来るような保護者支援を大切にしていきたい。そのために、連絡ノートや送り迎えの際の情報共有は丁寧に行っていく。 ・子どもの〝主体性〟を大切にする保育を実現するためには〝子ども理解〟は大切なことなので、保育者が子どもの姿に興味を持ちどんな経験を積んで欲しいか、職員間で更によく話し合い現状を振り返りながら物的環境・人的環境を整えていく。
	園の基本方針	・子ども一人ひとりの発達や成長、その子を取り巻く環境をよく理解し、その子の少し先を見据えた「今」を大切に温かく丁寧な保育をする。 ・安心して子どもを預かる環境を作り、親が自ら子育てを相談したくなるような信頼関係を目指す。			○			
	園の目指す子ども像	・安定した生活を送り、健康な身体と豊かな心を持つ子 ・様々な経験をし、自分で試したり考えたりしながら元気いっぱい遊ぶ子 ・自分大好き！友だち大好き！先生大好き！な子	・「よく遊び・よく食べ・よく眠る」という生きる上での基盤を大切にし、生活リズムを整えながら乳児期らしい心身ともに安定した生活を送れるよう1日の流れへの配慮をしていった。 ・保育の中で一人ひとりの「主体性」を育むことが出来るよう、子どもの興味や発達に合った玩具の選定や遊びの工夫をクラス毎行っていった。また、年齢に応じて遊びの中で〝やってみようとする気持ち〟や〝出来なくて悔しい気持ち〟も経験できるよう遊具など挑戦する機会を持っていった。 ・小規模園らしいクラスを隔てた関りを大切にしたいという思いから、異年齢と関わる機会を持ち憧れの気持ち・小さな子への優しい気持ちを持てるような時間を作っていった。		○			
	園の求める保育の視点	・子どもが自ら考え選択し、成功や失敗など多くの経験を踏めるような年齢に応じた関りや環境構成を行っていく。 ・個々の育ちの理解に努め、愛情をもって接する。 ・子ども、保護者、保育者同士の信頼関係を築いた上で、子育て・保育を共有し小規模園らしい家庭的で温かい保育を目指す。			○			
保育について	子どもの人権	子どもの人権を意識した保育がされている	・個々の性格や特性を配慮した上での言葉かけや関り方が出来るよう、行動・言動には気を付けていった。		○			・年度初めに、各クラスのカリキュラムを立て年間を通して育ちの見通しが持てるようにし、期毎の振り返りをMT内で行う事で全職員に共通認識することでチームとして保育が出来るようにする。クラス間では引き続き日々の保育を振り返る時間を持ち、翌日のねらいや月週案を立て、子どもの発達を促していく。 ・個性や年齢、子どものその時々の興味・関心を考慮した環境作りや、五感を刺激しつつ季節ならではの経験が出来るような遊びを計画するなど保育者の願いを持った保育が出来るよう意識していく。
	０歳から積み重なっていく発達を学年をまたいで考えられる	0歳から就学前までの発達が理解できており、個や異年齢の関わりを大切にした保育や保育の連続性を考慮した保育が行われている	・基本的な発達段階への理解た上で、月末には発達の記録を担任間で振り返ることで一人一人に合った援助や手立てを考え取り組んでいった。 ・異年齢での関りは、年度後半にかけては一緒に手を繋ぎ散歩に出かけたり、2歳児がお店屋さんごっこに招待したりするなど関わる機会を多く持っていった。		○			
	つながる保育	日々保育の振り返りが行われ、今後の保育へつながるよう計画されている	・歳児に合ったねらいをもち、その時期・その日に経験したいことや育ちへの願いを具体化し保育を行った。また、保育を振り返る機会をクラス間で日々行っていった。		○			
	生活リズムの確立およびリズムの多様性への配慮	安定した穏やかな気持ちで園生活が送れるように子どもの目線になり落ち着ける時間や空間(環境)が保障されている 育ちや発達に考慮した関わりを行っている	・朝の受け入れを丁寧に行い、気になることは保護者に聞き取りをするなど子どもの体調や機嫌に配慮した1日のスタートが切れるように対応をしていった。 ・気候・週末の疲れなども配慮したうえで無理なく過ごせるよう全体の		○			
	環境を大切に考える保育	自らあそび、チャレンジし、発想を広げられるような環境が整えられている	・発達や時期を考慮した遊び環境の変化や子どもの〝今〟の興味に合った玩具の選定などこまめに行っていった。		○			
安全管理	マニュアル理解	安全計画や災害・事故防止マニュアルは実効性があるものが策定されており、職員が内容を理解し定着対応できるような取り組みができている	・安全計画に基づき、マニュアルの理解をMT内で行う職員の共通意識を持てる機会をもち、内容を徹底できるように共有していった。 ・嘔吐処理やプール遊びなど、生活の中で特に必要とされるマニュアルに関しては実践を念頭に置いた練習やこまめに見直しを行うことで、適切に対応できるようにしていった。		○			・訓練の内容や時間帯も変化を変えて計画を立てたり、時には抜き打ちで訓練を行うなどし、様々な災害時の対応が出来るよう職員への意識付けを行っていく。日のシフトにより訓練に参加しない職員もいるため、その時々の反省や変更事項の共有は担当者が責任持って行う。 ・避難経路が固定されているので、様々な状況を考慮した経路確認も考えていきたい。 ・マニュアルについてのMTを回数を増やし、全職員が様々な状況を想定した柔軟な動きのシュミレーションが出来るようにする。 ・安全に関する意識を高めるため、ヒヤリハットの検証や災害訓練の反省や具体的な改善策は引き続き行っていく。
	事故防止	日々のヒヤリハットを集め共有し、園の子どもの特性を知っている 気を付けることや改善することを共有実践し大きな事故につなげない	・日々の小さなヒヤリハットをあげたものを毎月のMTの中で共有。特に共通認識の必要な事例を抽出し、どのようなところにヒヤリが潜んでいるかを検証する中で、事故に繋がらないための配慮事項を話し合った。		○			
	防災	様々な災害を想定した訓練を行い、全職員が状況に応じた的確な行動がとれる 保護者にも災害に対しての知識を伝えている	・災害訓練を毎月実施。地震・火災・不審者など様々な災害に遭った時に命を守る行動が取れるよう、意識をし訓練に参加。毎回振り返りをクラス毎丁寧に行い、子どもの状況を把握した上で「今、災害が起こったら」を考えていった。同時に保護者へも万が一に対応できるよう、連絡訓練をおこなっていった。		○			
	環境	クラス・廊下・共有場所・避難経路の整理整頓ができており安全が確保できている 遊具・玩具等点検を行い修繕されている	・園内安全点検を毎月、担当制で実施。ネジの緩み、園内の危険個所がないか確認その他の気付きをMT時に全職員に共有をした。玩具の点検・園内施設点検は毎日実施。玩具の破損などケガや誤飲につながる可能性のあるものはその都度修理や処分をし、事故が無いよう務めた。		○			
保健・食育	マニュアル理解	感染症マニュアルは実効性のあるものが策定されており、職員が内容を理解し、感染症や疾病についての知識を持ち対応できている	・季節の感染症についての勉強会を行い、種類や症状、感染経路など知識を持った上で感染症発生時は適切な消毒等行う事で感染拡大に務めた。また、感染症発生時には園内掲示をし保護者にも、発熱時など該当している可能性があるか等、把握出来るよう情報提供を行っていった。			○		・感染症予防に努めるよう、園と家庭との連携は引き続き大切にし、生活リズムを整え健康に過ごすことが出来るよう各家庭に合った声掛けや援助をしたり、給食だより・健康、衛生担当からのお知らせ等で意識できるような内容の策定をしていく。 ・健康で丈夫な身体づくりのためにも、食育活動の中での野菜の栽培は行っていく。例年、2歳児中心の野菜の栽培になっているため、収穫などはどの子も経験できるような機会を持っていきたい。
	健康	健康に過ごすために年齢にあった習慣が身についている	・食への意欲や程よく疲れた身体を休めるための午睡に繋がるよう、日中はリズム遊びや公園での探索、年齢に応じ遊具に挑戦するなど心地よく身体を動かす活動を取り入れていった。 ・季節により衣服の調整を行う事で、汗を掻きすぎる・服を着せすぎることがないような配慮を行っていった。また、保護者にも衣類の補充・着せすぎないことなど協力を仰いでいった。 ・鼻水が出たら保育者が拭く（0・1歳児）・拭こうとする（2歳児）咳をするときは口を手で抑える（2歳児）など歳児にあった声掛けを行い意識できるよう関わっていった。		○			
		自ら体を動かすことで心と体の健康を保つ取り組みを行っている			○			
	食育	食に興味が持てるよう給食職員と連携しながら取り組みをしている	・2歳児を中心に野菜の栽培やパン屋さんへの買い物等の食育を行い、食への興味・関心が高められる活動を保育の中に取り入れた。 ・給食提供の際には、調理員も様子を見にきながら声を掛けることで、作った人の顔や気持ちが分かる取り組みを行った。		○			
	食育	発達に応じた食事のマナーを伝えている	・〝給食を楽しんで自分で食べようとする〟ことをねらいとし、「いただきます」や「ごちそうさま」の挨拶を保育者と一緒にしたり、後期食では手づかみ食べを意欲的に行う・1歳児は食具に興味を持って使ってみようとする・2歳児は正しい食具の使い方を意識する・食べやすい場所へ食器を動かす・食器に手を添えるなど年齢にあった食へマナーを知らせ行っていった。		○			

項目	評価内容	重視したい評価内容	園の取り組み	評価				改善策・来年度に向けて
				A	B	C	D	
組織運営	組織体制	コミュニケーションやチームワークを大切にした組織運営ができている	・クラスの枠にとらわれず、コミュニケーションを図るよう日々の報連相を丁寧に行っていった。短時間パートへの共有もしっかり行う事で、出勤日以外の様子が伝わるようまた、分からないことは積極的に聞くなど全員が心掛けていった。		◯			・小規模園らしいクラスを隔てた保育となるため、どの職員もどの子どもや保護者との関りをもつ機会がある。引き続き、情報共有の場を変わらず大切にしていく。 ・それぞれの係の仕事を果たしながらも自分の気付きを行動に起こしたり、互いに声を掛け合い協力できる体制をつくる。
		園長を中心に役割分担と責任が明確にされ迅速な対応ができる体制があり、担当の役割を全うできている	・園長・ミドルリーダーが全体把握をし各係の仕事の相談にのったり、必要に応じて意見を伝えるなどし、係が積極的に動くことが出来るようにしていった。また、必要に応じて係以外の人に手助けを求めるなど全てを担当任せにならないような体制づくりを行った。			◯		
		打ち合わせや会議・ＭＴ等が適時行われ、情報共有がしっかりできている	・MT内での共有だけでなく、毎日朝礼・昼礼を行い園や子どもの状況を把握し、保護者への伝達漏れなど無いようにしていった。		◯			
研修	研修の充実と質の向上	園内研修担当者が中心となり園の課題や園が目指す保育の充実について学びの場や語り合いの場が活発に作られている	・前年度終わりに一緒のたい学びの内容を募り研修のテーマに組み込むことで、意欲をもって参加できるよう研修担当・正規職員を中心に毎月の園内研修を行っていった。研修の中ではグループ討議を行うことで職員一人一人の思いを聞くことが出来るような時間を多くとっていった。 ・園外研修ではミドルリーダーを中心に、片付けやトイレ介助など保育の中であたりまえになっていることの見直しが出来るテーマを挙げ小規模園の横のつながりを持ち、互いに情報交換が出来るような学びを深めた		◯			・毎月1回の研修の中では、一人一人の思いや考えを聞くことが出来るような方法を担当中心に考え「互いの思いが出し合える研修」の場となるようにし意識を高めていく。その時々の課題も適宜学びの内容に取り込み、保育の質の向上に努める。
		園外研修へ参加し自身の保育の質の向上に努め園内の保育に活かされている				◯		
保護者支援と家庭との連携	保護者支援	保護者が子どもの想い・成長・発達を受け入れ子育てできるよう配慮している また保護者が子どもの最善を考え行動できるよう支援している	・日々の子どもの様子を口頭や連絡ノートの様子から保護者の子育てに対する喜びや悩みを把握し、園の様子を知らせたり保育士としてアドバイスが出来るような寄り添いを心掛けていった。		◯			・保護者とのコミュニケーションを引き続き大切にし、子ども達の心身の状態や発達を把握し、それによる配慮が出来るようにしていく。また、安心して子育てを語ることが出来るよう成長を喜び合うだけでなく、心配なことは一緒に考えることが出来るような寄り添いや提案も行っていく。 ・ルクミー内でのドキュメンテーションもコンスタントにあげ見える化することで、保育園・保育内容への関心を更に高めていけるようにする。
	家庭との連携	保護者との信頼関係が築けており、保育園での子どもの様子を伝え喜びやつまずきを共有し共に育てている 園と保護者で子どもの様子や成長を共に楽しみ喜び合っていけるような取り組みをしている	・保護者対応を丁寧に行う事で、安心感を持ち話やすい関係性を築くことが出来るよう連携を大切にしていった。また、参加会や保護者面談を通して、園での姿を間近に見ながら子どもの成長を感じる機会を年間2回ずつ設け成長を共に喜び合う・課題に対する対応を一緒に考えるなど行っていった。		◯			
近隣の学校（園）との連携	（保育園）就学に向けた学校とのつながり （小規模）年少進級に向けた連携園とのつながり	（保育園）公開保育開催や公開授業へ参加、地域の情報交換の場へ参加し小学校との連携を図り就学がスムーズに行われるよう努めている （小規模）連携園との交流を行いスムーズに進級できるよう努めている	・2歳児は年少に上がることを見据えて、大きな集団を経験した。 ・連携園に安心して行くことが出来るように有度西こども園さんへの交流を今年度は2回設けることが出来た。		◯			・コロナの影響もあり有度西こども園との交流は令和6年度からようやく行う事が出来た。卒園後、連携園に転園する子が以前より増えてきている。他園に行く子も含め、年少からは今より大きな集団・大きな園となるため期待を膨らませ卒園出来るよう、有度西こども園との交流は引き続き行っていきたい。
近隣地域との連携	地域に親しまれる園作り	豊かな経験がはぐくまれるように、地域の様々な人と場に関わる機会を大切にしている	・民生委員さんからの提案により、地域のお年寄りと交流を図る機会を計画した。 ・散歩の際には公園内で譲り合いのマナーを子どもにも分かりやすいように伝えていく・近隣の方との気持ちの良い挨拶など積極的に行っていった。		◯			・令和6年度に取り組む予定だった近隣のお年寄りとの交流が雨天のため中止となってしまった。2歳児の子ども達も交流に向けて期待を膨らませていたので予備日等も考え実行できるように計画を立てる。